

## 平成29年度第2回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第2回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見をいただきました。

### 1 日時及び場所

平成29年8月31日（木）  
近畿中国森林管理局4階第3会議室

### 2 議題

- (1) 近畿中国局管内の需給動向について
- (2) 国有林材供給調整の必要性について
- (3) その他

### 3 議事概要

#### 《検討結果》

住宅関係では、29年1～6月の全国新設住宅着工戸数が前年比で増加が見られ、利用関係別では貸家と分譲一戸建てが引き続き好調である。

合板関係では、プレカット工場の好調な稼働等を背景に出荷は順調。流通業者へ在庫が回るようになったが、メーカーは在庫を積み増すほどの状況ではない。

チップ関係では、円安基調のもと、製紙メーカーは広葉樹を中心とした国産チップの供給を重視する動きがある。また燃料需給の緩和に伴い、売電単価の高い未利用材を求める傾向がある。

原木関係では、今後出材期を迎えることから買方の対応は冷静であり、スギ・ヒノキとも概ね保合。

以上、木材需給動向について総合的に検討した結果、現時点での国有林材の供給調整の必要性は認められない。

#### 〈主な情報、意見について〉

##### ○国産材の供給及び価格の動向について

- ・和歌山県田辺市の2共販所の7月の出材量は減少したが、良材が少ない状況であったため当用買いに徹した相場であった。スギ3m柱口は比較的引き合いがあり、4m中目材は共販所により差があるが、10月までは同じ状況が続くのではないかと見ている。
- ・和歌山県内の28年次生産量は前年比約1割伸びたが、出荷量の伸びは県内より県外向けが大きく、中でもバイオマス発電所向けの出荷が多い。
- ・岡山県内の木材市場の出荷量は例年通りである。これから出荷される材は梅雨期と比べて材質も良くなるであろうが、単価は現状で推移すると予測している。
- ・石川県七尾市の合板工場の昨年のカラマツ入荷量は、LVLメーカーによる長野県産カラマツの買足しが影響し悪い状況であった。京都府舞鶴市の合板工場ではカラマツの運搬コスト高を考慮しヒノキの使用量を増やしている。来年4月には三重県内で合板工場が稼働することから、七尾・舞鶴両工場とも厳しい状況が続くであろう。
- ・奈良県桜井市の原木市場では、5月以降は伐り旬が悪く8月まで出材量が少ない状況であった。スギの価格は伐り旬が悪く全体的に好転していない。ヒノキは一般的に大きな変動はなく、4m直材は土台角や板類、小曲材は合板やラミナの引き合いがある。原料材はバイオマス需要があり安定している。枝打ち材の役物は弱含みで推移。板取り用の中目材の引き合いは強く安定している。

- ・最近の為替は1ユーロ130円を超える展開であり、国内市場を主導している欧州材の相場は引き上がり、国産材は戦いやすくなる。その中でスギ集成管柱は、関東では生産する社が増加し当社も増産基調にある。その結果ホワイトウッド集成管柱の価格は上げづらい環境になった。
- ・復興需要によりスギ製品価格が上昇している九州に対して、関東は弱含みの傾向である。ヒノキは地域によっては土台角が上がっており不足感と先高感があるが、入荷量は潤沢ではなく、当社が市場で買い付けても在庫量が増えるほどではない。

#### ○原木需要分野（川下）の動向について

- ・今年4月に岡山県県産材利用促進条例を制定し、県産ヒノキをPRした「ひのき王国おかやま」というサイトで紹介動画を公開している。
- ・東京オリンピックの選手村ビレッジプラザへの地域材提供について、岡山県もCLTを含めた県産材を応募することに決定した。
- ・合板のフル生産を続けているが在庫不足が続いている。理由として住宅着工の好調があるが、南洋材合板の入荷量3割減が大きい。伐採税引き上げや伐採規制強化が影響し合板用原木が枯渇している。主な用途はコンクリート型枠やフロア台板だが、オリンピック施設にも多く使われる型枠が不足しているため、国産針葉樹合板の型枠に引き合いが増えている。フロア台板は7～8割が南洋材合板だが、これを国産材合板に替えたい意向がメーカー側ではっきりしてきている。当社では、オリンピックの建設遅延は社会的問題にもなることから、構造用合板の一部を型枠用へ振り向けていく方針である。
- ・東海地域の住宅着工は分譲及び貸家がけん引しているが、地場工務店は盛り上がり欠けている。分譲戸建ては勢いがあり、パワービルダーによる地方都市への営業拡大や優良な土地を抑えている話がある。